校内研修計画

山梨市立日川小学校

１　学校課題

令和５年度の全国学力学習状況調査の結果から、本校の課題として、国語・算数ともに、題意および問題の提示資料を正しく読み取るという力が付いていないことが挙げられる。題意を正しく読み取れないことで、条件に合った答え方ができなかったり、問題に答えられなかったりする様子（無解答）の割合が高い。

ＩＣＴを活用し児童が主体的に学ぶ授業づくりの基本スタイルを全職員で学ぶ研修を設け、個別最適化にどのように対応・変革していくのかを学ぶ必要がある。授業の主役は児童であり、授業者は、ファシリテーターとなる授業づくりが必要となる。

２　研究主題

主体的・協働的に学び、豊かに表現する児童の育成

　　～ＩＣＴを活用した学びを深める授業づくりを通して～

３　主題設定の理由

学習指導要領では、「子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成させること」や、「知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成させること」が基本的な考え方とされている。また、「情報活用能力」を、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に、「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けるとともに、学校のＩＣＴ環境整備とＩＣＴを活用した学習活動の充実に配慮することが明記されており、より積極的にＩＣＴを活用することが求められている。

令和３年度より児童一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ＩＣＴ環境の実現に向けて、ＩＣＴ端末や通信ネットワークの整備も進められてきた。昨年度は、各種ＩＣＴ研修による指導者のスキルアップを進めながら、児童の端末操作のスキルアップも同時に進めてきた。学年の発達段階もあるが、ＩＣＴを活用することで児童の学びが深まる授業づくりにはさらなる研究が必要である。また、協働的な学びをどのように展開していくのかが、児童の学びを深めることにつながっていくと考えられる。

児童の思考を深め、より豊かに表現できるようにするためには各教科における見方・考え方は「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものである。教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童が主体的に学べるように「見方・考え方」を自在に働かせることができるような手立てを探求したいと考え今年度は、ＩＣＴを活用して学びを深める授業づくりを通して、「主体的・協働的に学び、豊かに表現する児童の育成」に取り組んでいきたいと考え、本研究主題を設定した。

４　研究の具体的内容と方法

（１）授業づくり部会（研究主任）

①授業研究　　　Ａ：一人一実践

　　　②協働的な学びの授業過程、ファシリテーター

③見方・考え方を働かせる思考スキルの具体化

（２）ＩＣＴ活用部会（情報主任）

　　　①学級力向上　Ａ：ＷＥＢＱＵ（３～６年、６月・1月に実施）※年２回実施

Ｂ：学級力向上アンケート（端末活用）

②ＩＣＴスキルアップ学習会

③ＤＸ研究推進協力（山梨市教育委員会　指定校　加納岩：山梨南中との連携）

（３）今日的教育課題関連の学習会

①校内保健学習会（講師：窪田敬子養護教諭）

　　　②その他（児童の実態に応じて実施）

５　年間研究計画

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| No. | 月 | 日 | 研究内容 | 担当 | 備考 | TC要請 |
| 1 | 4 | 10 | 今年度の研究について① | 研究 |  |  |
| 2 |  | 17 | 今年度の研究について②　確定 | 研究 |  |  |
| 3 |  | 24 | WEBQU・学級力アンケートについて | 情報 |  |  |
| 4 | 5 | ＊1 | クラウド活用の授業づくり・GIGA端末の普段使い | 加納岩小 | ＤＸ１ |  |
| 5 |  | 15 | 山梨南中ブロック交流研  （担当：日川小→加納岩小に） | 加納岩小 | ＤＸ２ |  |
| 6 | 6 | 5 | WEBQUの結果を受けての学習会 | 研究 | ３～6年 |  |
| 7 |  | ＊8 | 学級把握、課題把握 | 個人 |  |  |
| 8 |  | 19 | ICTの活用についての研修会① | 加納岩小 | ＤＸ３ |  |
| 9 | 7 | ＊3 | ICTの活用についての研修会② | 加納岩小 | ＤＸ４ |  |
| 10 |  | 17 | 保健学習会 | 養護教諭 |  |  |
| 11 | ８ | 19 | 午前：三井一希先生（山梨大学准教授） | 市教委招聘 | ＤＸ５ |  |
| 12 |  | ＊26 | 教育課程還流報告 | 該当者 |  |  |
| 13 | 9 | 25 | ＤＸについて課題点、成果物 | 研究 |  |  |
| 14 | 10 | ＊2 | ＤＸの活用について | 個人 |  |  |
| 15 |  | 23 | 実践事例発表① | 該当者 |  |  |
| 16 |  | 30 | 実践事例発表② | 該当者 |  |  |
| 17 | 11 | 13 | 実践事例のまとめ | 研究 |  |  |
| 18 | 12 | ＊4 | 個人研究のまとめ① | 個人 |  |  |
| 19 |  | 11 | 今年度のまとめ、来年度への方向性 | 研究 |  |  |
| 20 |  | 18 | 次年度に向けての構想 | 研究 |  |  |
| 21 | 1 | 22 | 研究紀要の作成① | 研究 |  |  |
| 22 | ２ | ＊5 | 個人研究のまとめ② | 個人 |  |  |
| 23 |  | 19 | 研究紀要の作成② | 研究 |  |  |

＊がついている日は、職員会議も行う。上記以外に、一人一実践を各授業者の計画に従い行う。管理職との相談の上計画を立てる。（教職員評価も含む）